

BL型 屋内用 CATV、CS・BSブースタ

CATV・CS・BS BOOSTER

周波数帯域

CATV下り : 70~770MHz
 BS・CS : 1000~3224MHz
 CATV上り : 10~55MHz

CATV・SH-1MS
[CATV・SH-1]

AC100V方式

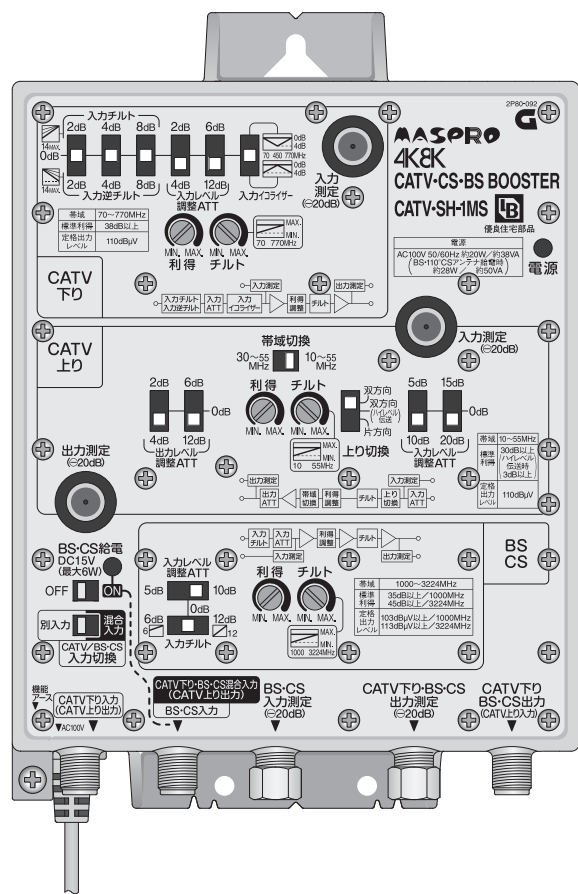
LB 優良住宅部品
 テレビ共同受信機器

取扱説明書
 施工説明書
4K8K
DIGITAL
 デジタル放送対応

[]はBL型式
 アパート・マンションなどで、CATV、BS・CS放送の
 共同受信に使用する、高性能ブースタです。

3224MHz対応 **ヘッド・ライン両用**
BS・110度CSデジタル放送対応

スカパー!プレミアムサービスには使用できません。



4K8K 4K8K放送を、より高画質で見るために、4K8K放送の伝送周波数帯域に対応した製品にマスプロ電工が表示しているマークです。

DIGITAL 携帯電話や無線通信などの混信、電波障害を抑制するために、高いシールド性能を備えた機器にマスプロ電工が表示している、信頼のマークです。

MASTER of PRODUCTION
生産の覇者

目次	ページ
安全上のご注意	2
取扱説明書	
特長	4
各部の名称	4
規格表	6
付属品	6
施工説明書	
取付方法	7
入力切換スイッチの設定	8
入力レベルの確認	8
調整方法	9
正しく使用していただくために	11
ブロックダイアグラム	12
保証について	
無償修理規定	12

- 正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に、この「取扱説明書」と「施工説明書」をよくお読みください。
- この「取扱説明書」と「施工説明書」は、いつでも見ることが出来る場所に保管してください。

BL部品とは



- 一般財団法人ベターリビングが優良住宅部品認定制度によって、品質、性能、アフターサービスなどに優れた住宅部品を厳重な審査に基づき認定した住宅部品です。さらに保証責任保険と賠償責任保険が制度化されていますから、安心してご利用できます。
- 当社の定める施工説明を逸脱しない方法で据付工事を行い不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行なった場合、BLマーク証紙の貼付(または刻印など)がされている部品については、同財団のBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- BLマーク証紙の貼付(または刻印など)がされている部品については、万一、当社または設置工事施工者による瑕疵保証責任などが行えない場合、これに代わる措置が同財団から受けられます。
- BL保険制度については、同財団のホームページ(<https://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。
 なお、BL保険制度に関する質問は、同財団(TEL 03-52111-0680)でもお受けいたします。

安全上のご注意




ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みください。

絵表示について









この「安全上のご注意」には、製品を安全に正しくご使用いただき、ご使用になる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示がしてあります。その表示と意味は次のとおりです。

	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。


絵表示の例




	△記号は、注意(警告を含む)が必要な内容があることを示しています。		⊘記号は、禁止の行為を示しています。		●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。
--	-----------------------------------	---	--------------------	--	---------------------------------

警告

	●ブースタは、不安定な場所に置いたり、取付けたりしないでください。落下して、けがの原因となります。		●雷が鳴り出したら、ブースタおよびケーブル・ACプラグ・ACコードには触れないでください。感電の原因となります。	
	●AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。			●ぬれた手で、ACプラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	●ACコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。また、重いものを載せたり、物や扉などで挟んだり、熱器具に近付けないでください。ACコードが破損して、火災・感電の原因となります。ACコードが傷んだ場合(芯線の露出や断線など)、販売店または施工業者に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。			●ブースタを風呂場やシャワー室などで使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	●ブースタの内部に、金属類や燃えやすいものなど、異物を入れないでください。火災・感電の原因となります。			●万一、ブースタの内部に、異物や水が入った場合、ACプラグをACコンセントから抜いて販売店または施工業者にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
	●ブースタに水をかけたり、ぬらしたりしないでください。ブースタの上に水や薬品の入った容器を置かないでください。水や薬品が中に入った場合、火災・感電の原因となります。また、ペットなどの動物が、ブースタの上に乗らないようご注意ください。尿などが中に入った場合、火災・感電の原因となります。	●万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにACプラグをACコンセントから抜き、煙や臭いが出なくなるのを確認して販売店または施工業者に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから、絶対におやめください。		
		●ブースタのカバーを取外したり、改造したりしないでください。また、ブースタの内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店または施工業者にご依頼ください。		●万一、ブースタを落としたり、破損したりした場合、ACプラグをACコンセントから抜いて販売店または施工業者にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
				●ACプラグは、ACコンセントに根元までしっかりと差込んでください。すき間があるとゴミがたまり、火災の原因となります。また、ACプラグは定期的にACコンセントから抜いて掃除してください。

⚠ 注意

	<ul style="list-style-type: none">●ブースタは、湿気やほこりの多い場所、調理台や加湿器の近くなど、油煙や湯気などが当たるような場所で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●ブースタは、風通しの悪い場所で使用しないでください。風通しを悪くしたり、通気孔(開口部)をふさいだりすると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、グラスウールのような断熱材の上に置いたり、包んだりしないでください。
	<ul style="list-style-type: none">●ブースタは、温室やサンルームなどの、高温で湿度の高い場所で使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●ACプラグをACコンセントから抜くときは、ACコードを引っ張らないでください。ACコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずACプラグを持って抜いてください。
	<ul style="list-style-type: none">●ACコードは、結んだり、束ねたりしたままで使用しないでください。発熱して、火災の原因となることがあります。

	<ul style="list-style-type: none">●ブースタは素手で触らないでください。ブースタの表面が高温になるため、やけどの原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●ブースタの突起物に手などをぶつけないように注意してください。手を切るなど、けがの原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●ブースタを移動させる場合、必ずACプラグをACコンセントから抜いてください。ACコードが傷つくと、火災・感電の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●お手入れは、安全のため、必ずACプラグをACコンセントから抜いて行なってください。感電の原因となることがあります。
	<ul style="list-style-type: none">●ブースタの施工は、専門業者にご依頼ください。また、1年に一度は、専門業者に保守・点検をご依頼ください。

取扱説明書

特長

4K8K放送に対応

BS・CS帯域の伝送周波数帯域が1000～3224MHz
ですから、新4K8K衛星放送に対応しています。

豊富な入・出力レベル調整機能

CATV上り、下り、BS・CSの帯域ごとに利得やチルトなど、
豊富な調整機能が付いていますから、各帯域の入・出力レベル
を最適な値に調整でき、多様なシステムに対応できます。

各部の名称

ご注意

- 利得調整・チルトの調整を操作するときは、調整用ドライバーを使用してください。無理に回すと、こわれることがあります。
- スイッチは軽く操作してください。力を入れすぎると、こわれることがあります。
- スイッチは確実に動かしてください。

前面 (CATV上り・下り 各種スイッチ・ボリューム・端子・表示灯)

CATV下り帯域の調整方法は、p.10「CATV下り」を、CATV上り帯域の調整方法は、p.11「CATV上り」をご覧ください。

CATV下り 入力レベルの調整

CATV下り入力測定端子 (CATV下り入力モニター端子) ($\ominus 20\text{dB}$)

入力コライザー(O, 4dB)

- 入力信号のレベル差を補正できます。
- 出荷時は「0dB」になっています。

入力チルト・入力逆チルト (最大14dB)

- 入力信号のレベル差を補正できます。
- CATV下り入力信号が全帯域にわたって傾斜している場合、補正します。
- 出荷時は「0dB」になっています。

入力レベル調整ATT (最大16dB)

- CATV下りの入力レベルが高い場合に使用します。
- 出荷時は「16dB」になっています。

CATV下り 出力レベルの調整

利得調整

- 出力レベルを0～ $\ominus 10\text{dB}$ の範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MIN.($\ominus 10\text{dB}$)」になっています。

チルト

- 70MHzにおける出力レベルを770MHzを基点として、0～ $\ominus 14\text{dB}$ の範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MAX.(0dB)」になっています。

電源表示灯

CATV上り 入力レベルの調整

CATV上り入力測定端子 (CATV上り入力モニター端子) ($\ominus 20\text{dB}$)

入力レベル調整ATT(最大30dB)

- 10～55MHzの入力レベルを5dBステップで最大30dBまでフラットに下げることができます。
- 出荷時は「30dB」になっています。

上り切換スイッチ

- 使用するシステムに合わせて、「双方向」、「双方向(ハイレベル伝送)」または「片方向」に切換えます。
- 出荷時は「双方向」になっています。

双方向

- 双方向ブースタとして、上り信号の入力レベルが低いときに使用する場合。
- 標準利得が30dBになります。

双方向(ハイレベル伝送)

- 双方向ブースタとして、上り信号の入力レベルが高いときに使用する場合。
- 標準利得が5dBになります。

片方向

- (上りをカットし、下りのみ増幅)
上り信号をカットして、下り信号のみ増幅の片方向ブースタとして使用する場合。

CATV上り 出力レベルの調整

CATV上り出力測定端子 (CATV上り出力モニター端子) ($\ominus 20\text{dB}$)

出力レベル調整ATT(最大16dB)

- 10～55MHzの出力レベルを2dBステップで最大16dBまでフラットに下げることができます。
- 出荷時は「16dB」になっています。

帯域切換スイッチ

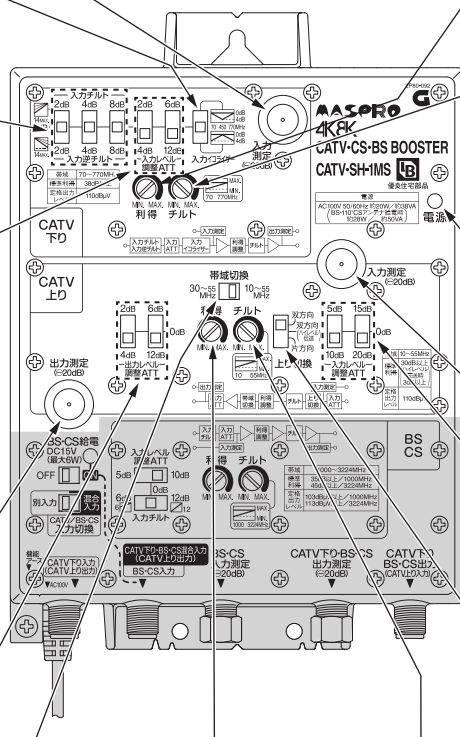
- 伝送周波数帯域を切換えられます。
- 出荷時は「10～55MHz」になっています。

10～55MHz

上り信号を全帯域にわたって伝送させる場合。

30～55MHz

上り信号を全帯域にわたって伝送させると、流合雑音が多くなる場合。



利得調整

- 出力レベルを0～ $\ominus 10\text{dB}$ の範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MIN.($\ominus 10\text{dB}$)」になっています。

チルト

- 10MHzにおける出力レベルを55MHzを基点として、0～ $\ominus 6\text{dB}$ の範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MAX.(0dB)」になっています。

前面 (BS・CS 各種スイッチ・ボリューム・表示灯)

BS・CS帯域の調整方法は、p.9「BS・CS」をご覧ください。

BS・CS給電表示灯

- BS・110度CSアンテナへ電源(DC15V)を供給しているときに点灯します。
- 供給時に消灯している場合、ショートまたは過電流となっています。原因を取除いてから、再度、BS・CS入力端子にケーブルを接続してください。(1分程度待ってから接続してください)

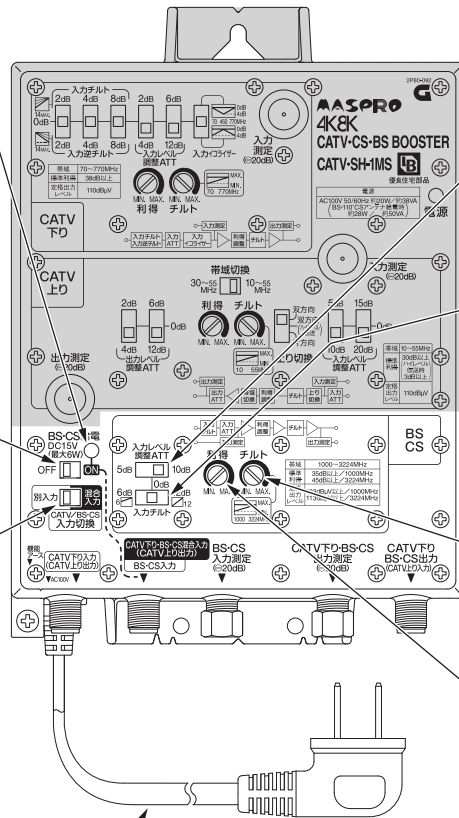
BS・CS給電スイッチ

(最大6W)

- BS・110度CSアンテナに電源(DC15V)を供給する場合、「ON」にしてください。
- 出荷時は「OFF」になっています。

入力切換スイッチ

- CATV下り、BS・CSの入力を「混合入力」と「別入力」に切り換えられます。
- p.8「入力切換スイッチの設定」をご覧ください。
- 出荷時は「別入力」になっています。



BS・CS 入力レベルの調整

入力レベル調整ATT(0、5、10dB)

- 1000～3224MHzの入力レベルを5dBステップで最大10dBまでフラットに下げることができます。
- 出荷時は「10dB」になっています。

入力フィルタ(0、6、12dB)

- 1000MHzにおける入力レベルを3224MHzを基点として、6dBステップで最大12dBまで調整できます。
- 出荷時は「0dB」になっています。

BS・CS 出力レベルの調整

フィルタ

- 1000MHzにおける出力レベルを3224MHzを基点として、0～ \pm 10dBの範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MAX.(0dB)」になっています。

利得調整

- 出力レベルを0～ \pm 10dBの範囲で連続して調整できます。
- 出荷時は「MIN.(\pm 10dB)」になっています。

ACコード

(約0.9m)

ACコードを延長するために、途中で切断して別のコードをつなぐことは、電気設備技術基準で禁じられています。

底面

CATV下り入力端子 (CATV上り出力端子)

- CATV下り、BS・CS別入力のときのCATV下り入力端子とCATV上り出力端子です。
- 使用しないときは、付属のゴムキャップを取付けてください。

機能アース端子

CATV下り・BS・CS混合入力端子 (CATV上り出力端子) BS・CS入力端子

- CATV下り・BS・CS混合入力のときのCATV下り・BS・CS入力端子とCATV上り出力端子です。
- CATV下り、BS・CS別入力のときのBS・CS入力端子です。

CATV下り・BS・CS出力端子 (CATV上り入力端子)

CATV下り・BS・CS出力測定端子 (出力モニター端子) (\pm 20dB)

出力レベルの測定後は、取外したメタルキャップを取付けてください。

- 締付トルク：2.4N・m(25kgf・cm)

BS・CS入力測定端子 (BS・CS入力モニター端子) (\pm 20dB)

入力レベルの測定後は、取外したメタルキャップを取付けてください。

- 締付トルク：2.4N・m(25kgf・cm)

規格表

AASPRO

項目		規格		
周波数帯域		10 ~ 55MHz (CATV上り)	70 ~ 770MHz (CATV下り)	1000 ~ 3224MHz (BS・CS)
最大伝送容量※1		2ch. (アナログTV信号) + データ信号	74ch. (アナログTV信号) (70 ~ 550MHz) + デジタル信号 (550 ~ 770MHz)	BS・CS 50ch. (デジタル)
標準入力レベル		80dB μ V (ハイレベル伝送時105dB μ V)	72dB μ V	68dB μ V
標準利得		30dB以上	38dB以上	35dB以上/1000MHz 45dB以上/3224MHz
定格出力レベル※2		110dB μ V	110dB μ V	103dB μ V/1000MHz 113dB μ V/3224MHz
入力レベル調整	ATT	0 ~ 30dB切換 (5dBステップ)	0 ~ 16dB切換 (2dBステップ)	0、5、10dB切換
	入力チルト特性	—	0 ~ 14dB切換 (2dBステップ) ※7	0、6、12dB切換 ※10
	逆チルト特性	—	0 ~ 14dB切換 (2dBステップ) ※8	—
	イコライザー	—	0、4dB切換 ※9	—
出力レベル調整	ATT	0 ~ 16dB切換 (2dBステップ)	—	—
	利得調整範囲	0 ~ \ominus 10dB以上 (連続可変)	0 ~ \ominus 10dB以上 (連続可変)	0 ~ \ominus 10dB以上 (連続可変)
	チルト特性	0 ~ \ominus 6dB以上 (連続可変) ※6	0 ~ \ominus 14dB以上 (連続可変) ※7	0 ~ \ominus 10dB以上 (連続可変) ※10
伝送帯域内周波数特性偏差		全帯域で \pm 1.0dB以内	全帯域で \pm 2.0dB以内	任意の34.5MHzで \pm 1.0dB以内 チルト直線に対し全帯域で \pm 2.5dB以内
雑音指数		10dB以下	10dB以下	10dB以下
電圧定在波比		2.0以下	2.0以下	2.5以下
相互変調	IM ₂ ※3	\ominus 60dB以下	\ominus 63dB以下	—
	IM ₃ ※3	\ominus 70dB以下	—	—
CTB※4		—	\ominus 60dB以下	—
CIN※3		—	—	\ominus 22dB以下
利得安定度		\pm 2.0dB以内	\pm 2.0dB以内	\pm 3.0dB以内
ハム変調		\ominus 60dB以下	\ominus 60dB以下	\ominus 60dB以下
漏洩電界強度※5		—	34dB μ V/m以下	40.2dB μ V/m以下
入力測定端子結合量		\ominus 20dB (F型端子)	\ominus 20dB (F型端子)	\ominus 20dB (F型端子)
出力測定端子結合量		\ominus 20dB (F型端子)	\ominus 20dB (F型端子)	\ominus 20dB (F型端子)
入出力インピーダンス		75 Ω (F型端子)		
耐衝撃波		JEC: \pm 25kV (1.2/50 μ s)、IEC: \pm 15kV (1.2/50 μ s)、 \pm 1.5kA (8/20 μ s) のサージ電圧・電流に耐えること		
電源		AC100V 50/60Hz		
消費電力		約20W/約38VA (BS・110度CSアンテナへ給電時 約28W/約50VA)		
コンバータ供給電源		DC15V 6W		
使用温度範囲		\ominus 10 ~ \oplus 40 $^{\circ}$ C		
外形寸法		196 (H) \times 140 (W) \times 68 (D) mm		
質量 (重量)		約1.7kg		
シンボル				
備考		避雷回路内蔵、定電圧回路内蔵		

※1 デジタルは \ominus 10dB運用。

※2 全電力が \oplus 20dBm以下で運用のこと。

※3 定格出力レベル時。

※4 70~550MHzに適用。

※5 3mの距離において。

※6 55MHzを基点とした10MHzでのチルト量です。

※7 770MHzを基点とした70MHzでのチルト量です。

※8 70MHzを基点とした770MHzでのチルト量です。

※9 450MHzを基点とした70MHzと770MHz、
または、70MHzと770MHzを基点とした
450MHzでのチルト量です。

※10 3224MHzを基点とした1000MHz
でのチルト量です。

BL規格表示による

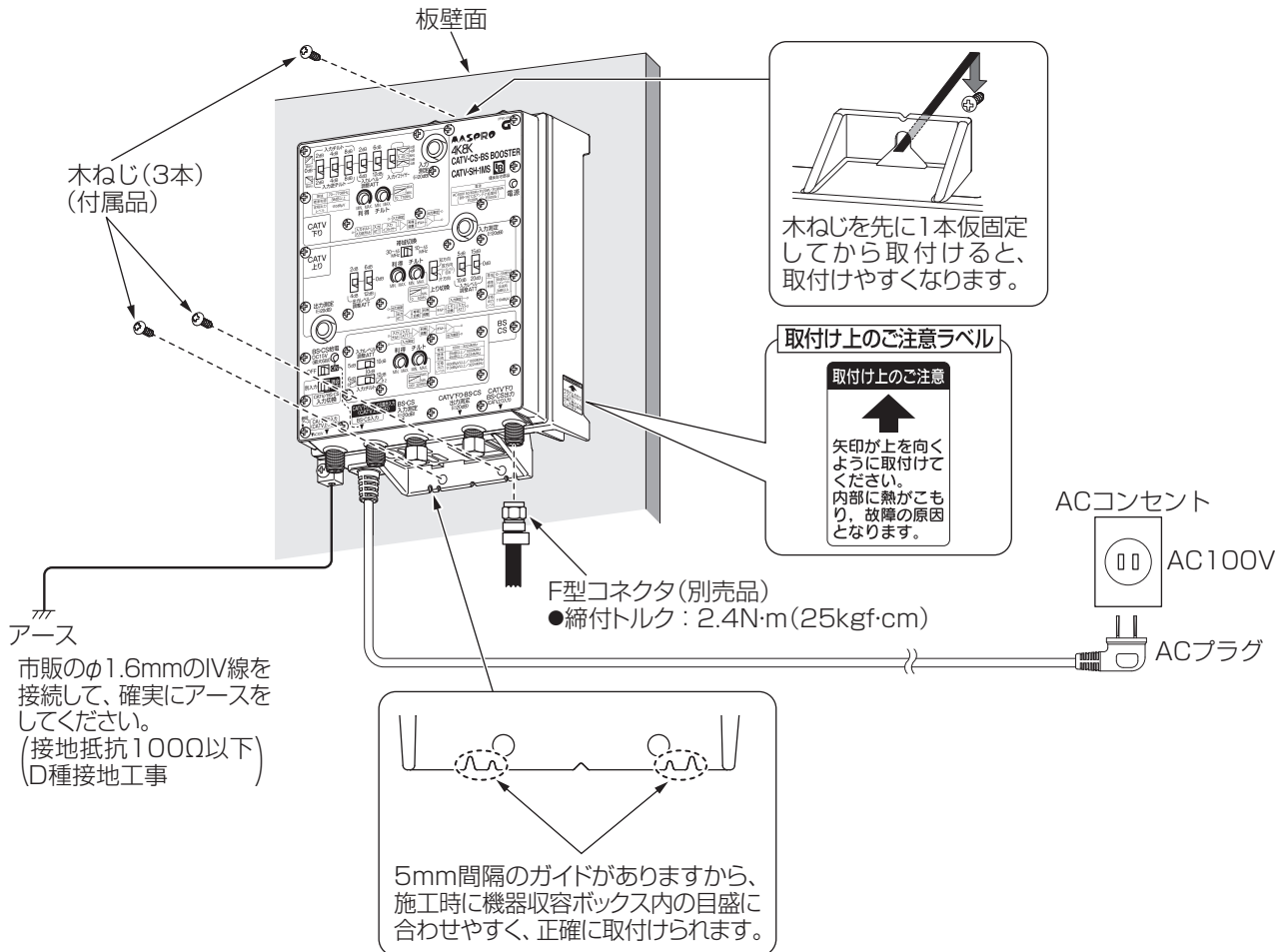
付属品

木ねじ (壁面取付用) 3本
ゴムキャップ 1個

施工説明書

取付方法

- 本器は屋内用です。雨水のかかる場所では、防水型の機器収容ボックスに設置してください。
- 75Ωケーブル(同軸ケーブル)はS5CFB相当以上のJISケーブル、F型コネクタはコンタクトピン付F型コネクタをお使いください。
- 接触不良やショートを防ぐため、コネクタははいていないに取付けてください。
- 4K8K放送を伝送する場合、4K8K放送に対応している機器、ケーブルを使用してください。



ご注意

- 本器は、取付方法にしたがって正しく取付けてください。
(本器側面に貼付けられている、「取付け上のご注意ラベル」の矢印が上を向くように取付けてください)
- ACプラグは、p.8「入力レベルの確認」が終了するまで、ACコンセントに接続しないでください。
- 75Ωケーブルを接続する前に、必ずアースをしてください。
- 本器は、内部に熱がこもらないように、グラスウールのような断熱材の上に置いたり、包んだりしないでください。
- 本器の通気孔(開口部)をふさがないでください。
- 腐食性ガス(塩素、硫化水素、亜硫酸ガス、窒素酸化物、塩基性ガスなど)が発生する環境で本器を使用しないでください。
- 75Ωケーブルは電気配線と束ねて配線しないでください。また、強い電磁波を受ける場所を避けて設置してください。
- 設置場所は、メンテナンスに容易な場所を選定してください。

機器収容ボックスに設置するときのご注意

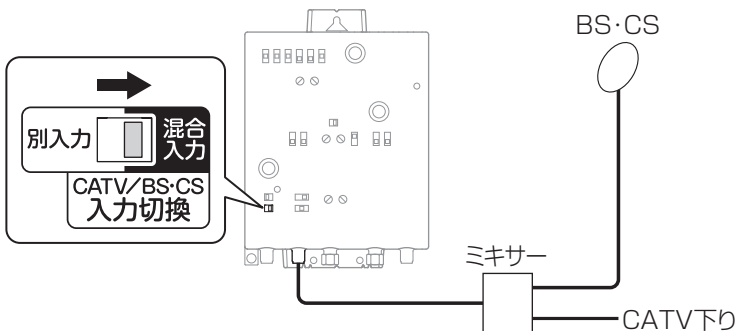
- 本器を機器収容ボックスに設置するときは、機器収容ボックス内が製品の使用温度を超えないように下記の点に注意してください。機器収容ボックス内が高温になると、故障の原因となります。
 - ・機器収容ボックスは、内部の温度が40℃を超えるような場所に取付けないでください。
 - ・機器収容ボックスは、800(H)×800(W)×160(D)mm以上の大きさで、換気孔(開口部)のあるものを使用してください。[換気孔(開口部)をふさがないでください]
 - ・本器以外に発熱する機器を設置するときは、機器収容ボックスを大きなサイズにしてください。
 - ・本器は、高温にならないように、できるだけ機器収容ボックス内の低い位置に取付けてください。
 - ・本器の通気孔をふさぐような機器収容ボックス内の位置に、他の機器を取付けないでください。
- ビニルテープなどの腐食性ガスを発生するものを機器収容ボックス内で使用しないでください。
- 機器収容ボックスは、あらかじめアースをしてください。

入力切換スイッチの設定

出荷時の入力切換スイッチは「別入力」になっています。

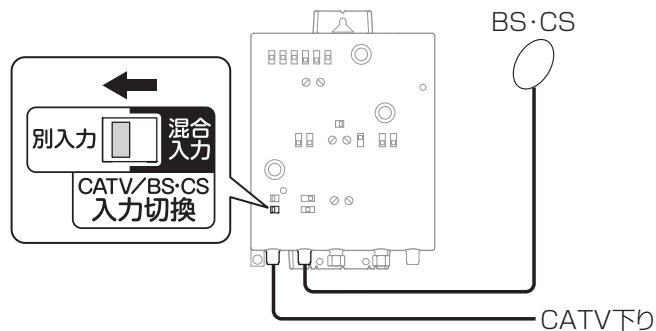
CATV下りとBS・CSを混合して入力する場合

入力切換スイッチを「混合入力」側に切換えます。



CATV下りとBS・CSを別々に入力する場合

入力切換スイッチを「別入力」側に切換えます。



入力レベルの確認

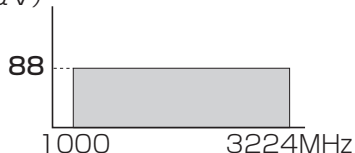
ご注意

ブースタは、過大な入力レベルで作動させておくと、故障の原因となります。使用する前に必ず確認してから、本器に電源を供給してください。

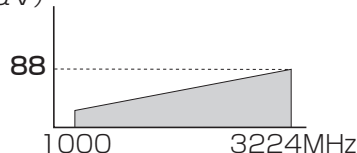
レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザで、入力レベルが下記のレベル以下になっているか確認します。
 ●入力レベルが下記のレベルを超えるときは、別売のアッテネーターを使用して、下記のレベル以下になるようにしてください。

BS・CS

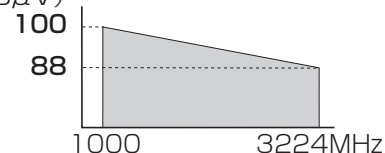
入力レベル (dB μ V) **フラット入力の場合**



入力レベル (dB μ V) **チルト入力の場合**

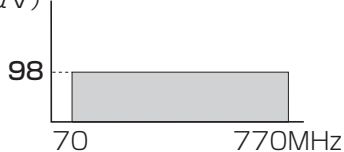


入力レベル (dB μ V) **逆チルト入力の場合**

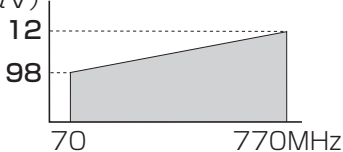


CATV下り

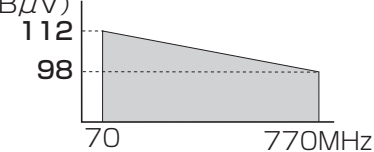
入力レベル (dB μ V) **フラット入力の場合**



入力レベル (dB μ V) **チルト入力の場合**



入力レベル (dB μ V) **逆チルト入力の場合**



CATV上り

ご注意

- CATV上り帯域の調整については、必ずケーブルテレビ局に確認してください。
- 調整にはテスト信号発生器が必要で、テスト信号のレベルは使用するシステムにより異なります。

1. 入力レベルの調整

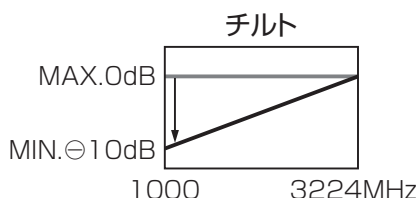
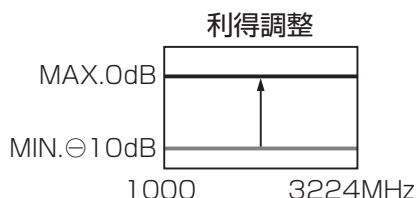
- ① BS・CS入力端子 (CATV下り・BS・CS混合入力端子) にBS・110度CSアンテナからのケーブルを接続します。
●BS・110度CSアンテナへ電源 (DC15V) を供給する場合、BS・CS給電スイッチを「ON」にしてください。
- ② CATV下り・BS・CS出力端子に、出力用ケーブルを接続します。
- ③ ACプラグをACコンセントに接続します。
- ④ レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをBS・CS入力測定端子 (BS・CS入力モニター端子) に接続します。
- ⑤ BS・CS入力測定端子 (BS・CS入力モニター端子) のレベルが、58dB μ V以下になるように、入力チルト、入力レベル調整ATTで調整します。
●測定値に20dBを加えた値が実際の入力レベルです。

入力調整機能について

調整機能	調整例 (波形イメージ)	
	調整前	調整後
入力チルト (3224MHz基点) 1000MHzにおける入力レベルを6dBステップで最大12dBまで調整できます。 (3224MHzの入力レベルは変わりません) 	<p>1000 3224MHz 1000 3224MHz (BS・CS入力測定端子での波形)</p>	
入力レベル調整ATT 1000~3224MHzの入力レベルを5dBステップで最大10dBまでフラットに下げることができます。 	<p>1000 3224MHz 1000 3224MHz (BS・CS入力測定端子での波形)</p>	

2. 出力レベルの調整

- ① レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをCATV下り・BS・CS出力測定端子 (出力モニター端子) に接続します。
- ② CATV下り・BS・CS出力測定端子 (出力モニター端子) のレベルが、1000MHzで83dB μ V以下、3224MHzで93dB μ V以下になるように、利得調整、チルトで調整します。
●測定値に20dBを加えた値が実際の出力レベルです。



1. 入力レベルの調整

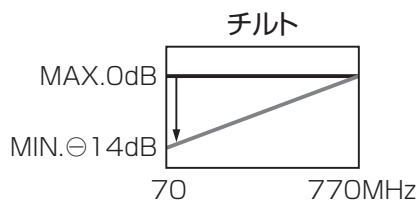
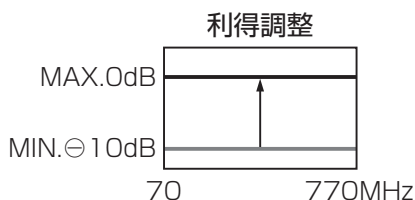
- CATV下り入力端子(CATV下り・BS・CS混合入力の場合、CATV下り・BS・CS混合入力端子)に、CATVラインからの入力用ケーブルを接続します。
- レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをCATV下り入力測定端子(CATV下り入力モニター端子)に接続します。
- CATV下り入力測定端子(CATV下り入力モニター端子)のレベルが、 $62\text{dB}\mu\text{V}$ 以下になるように、入力チルト、入力逆チルト、入力レベル調整ATT、入カイヤイザーで調整します。
 - 測定値に 20dB を加えた値が実際の入力レベルです。

入力調整機能について

調整機能	調整例(波形イメージ)	
	調整前	調整後
入力チルト (770MHz基点) 70MHzにおける入力レベルを 2dB ステップで最大 14dB まで調整できます。(770MHzの入力レベルは変わりません)		
入力逆チルト (70MHz基点) 770MHzにおける入力レベルを 2dB ステップで最大 14dB まで調整できます。(70MHzの入力レベルは変わりません)		
入力レベル調整ATT 70~770MHzの入力レベルを 2dB ステップで最大 16dB までフラットに下げることができます。		
入カイヤイザー (70MHz・770MHz基点) 70MHzと770MHzを基点として、450MHzにおける入力レベルを 4dB 下げることができます。(70MHzと770MHzの入力レベルは変わりません)		
入カイヤイザー (450MHz基点) 450MHzを基点として、70MHzと770MHzにおける入力レベルを 4dB 下げることができます。(450MHzの入力レベルは変わりません)		

2. 出力レベルの調整

- レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをCATV下り・BS・CS出力測定端子(出力モニター端子)に接続します。
- CATV下り・BS・CS出力測定端子(出力モニター端子)のレベルが、 $90\text{dB}\mu\text{V}$ を超えない範囲で、システムに合わせて、利得調整、チルトで調整を行います。
 - 測定値に 20dB を加えた値が実際の出力レベルです。

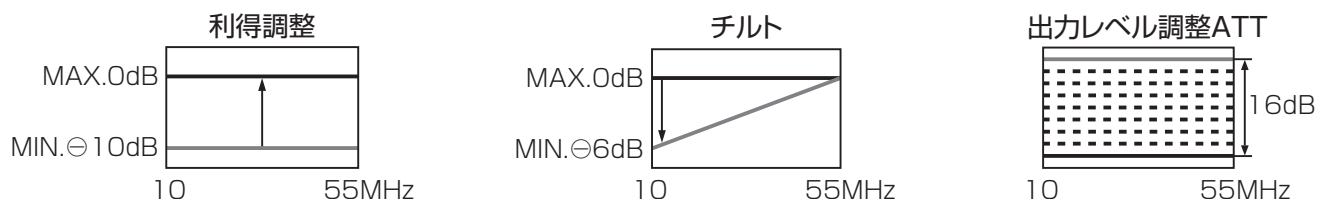


1.入力レベルの調整

- CATV下り・BS・CS出力端子(CATV上り入力端子)またはCATV下り・BS・CS出力測定端子(出力モニター端子)に、テスト信号発生器からのケーブルを接続します。
 - CATV下り・BS・CS出力測定端子(出力モニター端子)から信号を入力する場合は、標準入力レベルより20dB高いレベルを入力してください。
- レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをCATV上り入力測定端子(CATV上り入力モニター端子)に接続します。
- CATV上り入力測定端子(CATV上り入力モニター端子)のレベルが、70dB μ V以下になるように、入力レベル調整ATTで調整します。(ハイレベル伝送時は、レベルが95dB μ V以下になるように、入力レベル調整ATTで調整します)
 - 測定値に20dBを加えた値が実際の入力レベルです。

2.出力レベルの調整

- レベルチェッカーまたはスペクトラムアナライザをCATV上り出力測定端子(CATV上り出力モニター端子)に接続します。
- CATV上り出力測定端子(CATV上り出力モニター端子)のレベルが、90dB μ Vを超えない範囲で、システムに合わせて、利得調整、チルト、出力レベル調整ATTで調整を行います。
 - 測定値に20dBを加えた値が実際の出力レベルです。



ハイレベル伝送について(CATV上り帯域用)

上り切換スイッチを「**双方向(ハイレベル伝送)**」にすると、標準入力レベルを105dB μ V(2ch.)の高いレベルにできます。ハイレベル伝送は、利得をおさえ、高い入力レベルで運用してC/Nの劣化を防ぐことによって、システムの流合雑音の発生を抑えるためのものです。

カスケード接続での運用方法

カスケード接続する場合、各ブースタの出力レベルを定格出力レベルより下げて運用してください。(2段カスケードの場合:定格出力レベルより3dB下げる、3段カスケードの場合:4.8dB下げる)

正しく使用していただくために

画像が出ない場合、または、よい画質が得られないときは、次のチェックをしてください。

画像が出ない場合 (CATV・BS・CS受信時)

- 電源**
規定の電源(AC90~110V)が正しく供給されていますか。
●電源電圧を確認してください。
- BS・CS給電スイッチ**
正しく操作してありますか。
- 入力切換スイッチ**
正しく操作してありますか。
- 入・出力端子とケーブルの接続**
本器に接続する入・出力ケーブルは、それぞれの端子に正しく接続してありますか。

画像にモザイク状のノイズが出る場合 (CATV受信時)

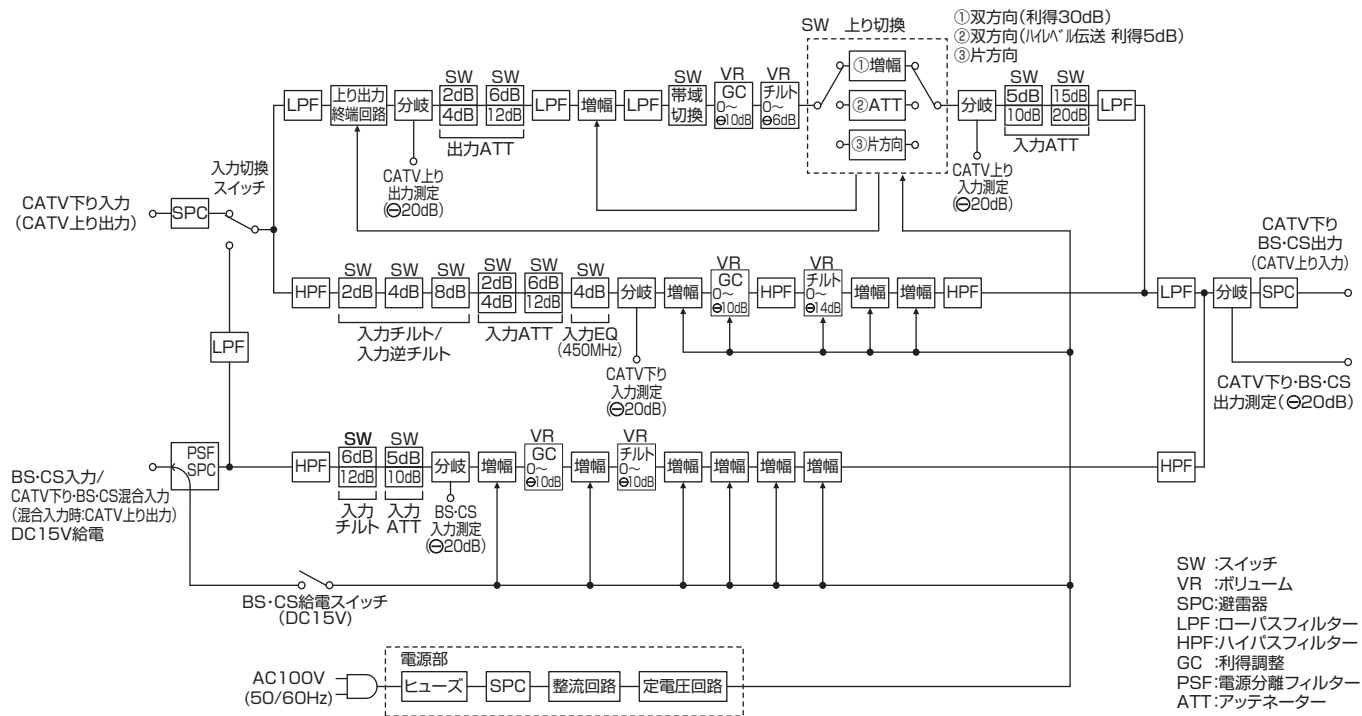
入力レベルの確認と調整・出力レベルの調整

入出力レベルは正しいですか。

- p.8「**入力レベルの確認**」、p.10「**1.入力レベルの調整**」、「**2.出力レベルの調整**」を再度行なってください。

画像にモザイク状のノイズが出る場合 (BS・CS受信時)

- アンテナの方向**
アンテナの方向がずれています。
●画像を見ながら、ノイズが最も少なくなるように、BS・110度CSアンテナの方向を再調整してください。
- レーダーによる妨害**
レーダーのある基地や空港の近くで受信すると、周期的に画像に妨害を受けることがあります。
●本器やBS・110度CSアンテナをレーダーの電波ビームから外れる低い位置か、建物の陰など、妨害の影響を受けない場所に移動ください。
- 入力レベルの確認と調整・出力レベルの調整**
入出力レベルは正しいですか。
●p.8「**入力レベルの確認**」、p.9「**1.入力レベルの調整**」、「**2.出力レベルの調整**」を再度行なってください。



保証について

無償修理規定

保証期間内に取扱説明書・施工説明書記載事項にしたがった正常な使用状態で故障した場合、当社支店・営業所までお申付けください。

この製品の保証期間は、お引渡しの日から2年間です。

保証期間内でも下記の場合、有償修理となります。

- ① 住宅、事務所、学校、病院、ホテルまたは旅館以外で使用したときの不具合。
- ② ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合。
- ③ メーカーが定める施工説明書等を逸脱した施工に起因する不具合。
- ④ メーカーが認めた者以外の者による住宅部品の設置後の移動・分解などに起因する不具合。
- ⑤ 建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせなどの経年変化、または、使用に伴う磨耗などにより生じる外観上の現象。
- ⑥ 海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合。
- ⑦ ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合。
- ⑧ 火災・爆発事故・落雷・地震・噴火・洪水・津波などの天変地異、または、戦争・暴動などの破壊行為による不具合。
- ⑨ 消耗部品の消耗に起因する不具合。
- ⑩ 電気の供給トラブルなどに起因する不具合。

マスプロ電気

本社 〒470-0194 愛知県日進市浅田町上納80

技術相談  **0570-091119**

※ナビダイヤル。固定電話からは全国一律料金でご利用いただけます
 IP電話などナビダイヤルが利用できない電話からは **052-805-3366**
 受付時間 9~12時、13~17時(土・日・祝日、当社休業日を除く)

営業部 TEL名古屋(052)802-2244

受付時間 9~17時45分(土・日・祝日、当社休業日を除く)

インターネット www.maspro.co.jp

- 製品向上のため 仕様・外観は変更することがあります。
- この製品を廃棄する場合、その他産業廃棄物での処理をしてください。

